

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 17

主要事業名	生涯学習活動の推進（学習機会の提供）					作成日	令和元.5.30	
						担当課名	社会教育課	
事業の性質	法定受託事務		自治事務（義務）	○	自治事務（任意）	○	市民サービス	管理経費
							建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(1)	社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進		基本政策	5	学び・楽しみ、地域がつながるまち	
個別施策	②	能力や経験が生かされる仕組みづくり		基本施策	2	生涯学習の推進	

根拠法令等	
-------	--

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり出前講座…市が行っている事業や施策を知っていただくため、市の職員を講師として派遣する事業。 ・かしま灘楽習塾との連携…市民が主役の生涯学習を推進する自主運営組織であるかしま灘楽習塾の活動を支援し、市民の学習機会の充実を図る。 ・市民団体の支援…市内で活動している文化協会、子ども会育成会、青少年市民会議、ガールスカウトの支援を行う。
------------	--

目的（事業の目指すところ）	・市民の主体的な活動を補助し、活動に取り組める場と機会の充実を目的とする。
---------------	---------------------------------------

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・講座に関する情報を広報PRを行い、市民に制度や教室を知ってもらう。 ・円滑な教室運営を行うため、市内各施設の連絡調整を行う。 ・市民団体の活動に対してに補助を行い、活動の支援をする。
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	かしま灘楽習塾のように、市民の自主運営による1,000人を超える生涯学習組織は、全国的に見ても少なく、先進的な取り組みである。
--------------------------	---

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	平成30年度（実績）	令和元年度（予定・見込）	2年度（予定・見込）	3年度（予定・見込）	4年度（予定・見込）
		まちづくり出前講座開催数	回	27	30	30	30
	かしま灘楽習塾講座数	教室	118	120	130	140	150

投入コスト	全体計画		平成30年度（決算額：千円）	令和元年度（予算額：千円）	2年度（計画額：千円）	3年度（計画額：千円）	4年度（計画額：千円）
	事業経費	まちづくり出前講座		0	0	0	0
生涯学習の推進団体のサポート			0	0	0	0	0
市民団体への補助金			1,260	1,200	1,200	1,200	1,200
合計			1,260	1,200	1,200	1,200	1,200
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他（参加者負担金）						
従事職員数	一般財源		1,260	1,200	1,200	1,200	1,200
	正規職員（フルタイム勤務者）		1	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		1				

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:生涯学習活動の推進(学習機会の提供)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけ成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①まちづくり出前講座の実施 【比率: 40%】	市民が自主的に開催する学習会などに、市の職員を講師として派遣し、市制に関する、専門的知識や技能を活かした講座を行うことで、市民の学習機会の充実を図る。	・まちづくり出前講座の実施。	・各課の講座内容の取りまとめ ・まちづくり出前講座の広報 ・まちづくり出前講座の実施	・まちづくり出前講座の種類:57種類 ・まちづくり出前講座の開催数:27回	(評価をふまえた改善点) 広報用のチラシデザインを変更し、手に取って見てもらえるように工夫した。	個別事業実績評価点: 26.0 [課題] 講座種類は豊富にあるが、依頼される講座に偏りがある。市民が興味を示す内容などを講座を実施する課と協議する必要がある。
②生涯学習推進団体のサポート 【比率: 40%】	市民団体への支援(広報PR, 活動場所の提供, イベントへの参加依頼など)を通じて、団体の運営体制の充実を図る。	・かしま灘楽習塾の講座数の増加。 ・かしま灘楽習塾受講生の増加	・かしま灘楽習塾受講生募集の広報 ・活動場所(中央公民館, 各地区公民館など)の提供 ・市内イベント(てーら祭など)への参加依頼	・かしま灘楽習塾の講座数:118講座 ・かしま灘楽習塾の受講生:1,402名	(評価をふまえた改善点) てーら祭(中央公民館)などで、体験型ブースを出店するなど、新たなPR活動を行っている。	個別事業実績評価点: 30.2 [課題] 講座開催祭場所は、中央公民館が主で、各地区公民館ではあまり開催されていないので、広い地域で開催できるよう、今後検討が必要。
③市民団体の支援 【比率: 20%】	市民団体への支援(補助金, 事業への参加など)を通じて、団体の運営体制の充実を図る。	・各団体での事業の実施。	・各団体での事業(文化フェスティバル, 青少年の主張大会, 子ども会指導者研修会など)	各団体から補助金の実績報告を提出もらい、団体の状況を把握する。	(評価をふまえた改善点) 計画的な事業実施, 予算運用について、改善を行っている。	個別事業実績評価点: 13.0 [課題] 今後も活動を継続していくために、次の世代を担ってもらう人材の育成が課題である。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	69.2	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 ・行政は、住民に説明を求められれば、出向き説明することは一般的に行われている。まちづくり出前講座のように、講座メニューを取りまとめ制度化し、住民が行政に依頼するハードルを下げることで、より充実した学習機会の提供が図れている。 ・かしま灘楽習塾のような、市民主体で、多種多様な講座の開催、千人を超える受講生を管理、運営している団体は、全国的に見ても数は少なく、先進的な取り組みである。							
充実, 現状維持, 見直し, 休止・廃止	現状維持	理由	住民からの講座要望が継続して多いため。					
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・講座種類は豊富にあるが、依頼される講座に偏りがある。市民が興味を示す内容などを講座を実施する課と協議する必要がある。 ・講座開催場所は、中央公民館が主で、各地区公民館ではあまり開催されていないので、広い地域で開催できるよう、今後検討が必要。							
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・まちづくり出前講座のチラシにある、講座内容一覧の各講座の説明文などを改善し、市民が興味を示す内容にしていく。 ・中央公民館と比較して、空いている各地区公民館を活用して、講座を開催することで、より地域に根付いた運営を推進する。							

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 18

主要事業名	地区公民館活動の充実					作成日	令和元.6.3	
						担当課名	中央公民館	
事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)		自治事務(任意)	○	市民サービス	管理経費
							建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	4	市民と共に創るまちづくり	
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成		基本政策	9	地域が結び、笑顔あふれるまち	
個別施策	①	まちづくり委員会活動の支援		基本施策	2	コミュニティ活動の活性化	

根拠法令等	
-------	--

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	地域における公民館事業（まちづくり事業）を、各地区まちづくり委員会に委託することで、地域住民が求める地域活動を、自ら企画・運営する主体的な活動が実践されています。また、各地区まちづくり委員会委員と公民館職員で組織する「まちづくり連絡協議会」において、地区まちづくり委員会同士での情報交換や各種研修会の実施など、共創のまちづくりの推進に向けた取り組みを実践しています。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域社会が形成される。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力や地域資源を活用した学習機会の提供及び地域住民の学習拠点としての公民館 各種事業（イベント等）を活用した地域の連帯感を育む機会の提供 地域内の様々な市民活動団体に対する支援事業
------------	---

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>○人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（中教審） <地域における社会教育の目指すもの></p> <ol style="list-style-type: none"> 地域における社会教育の意義と果たすべき役割 ～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～ 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～ <「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策> <ol style="list-style-type: none"> 学びへの参加のきっかけづくりの推進 多様な主体との連携・協働の推進 多様な人材の幅広い活躍の促進 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等
--------------------------	---

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (予定・見込)	2年度 (予定・見込)	3年度 (予定・見込)	4年度 (予定・見込)
		地区公民館来館者数	人	258,812	248,000	249,000	250,000
	研修会等の機会	回	43	42	42	42	42

投入コスト	全体計画		平成30年度 (決算額：千円)	令和元年度 (予算額：千円)	2年度 (計画額：千円)	3年度 (計画額：千円)	4年度 (計画額：千円)
		地区まちづくり事業委託		10,900	10,900	10,900	10,900
	まちづくり支援事業委託						
	・特色ある地域づくり事業		200	400	600	600	600
	合計		11,100	11,300	11,500	11,500	11,500
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		11,100	11,300	11,500	11,500	11,500
従事職員数	正規職員(フルタイム勤務者)		5	5	8	10	12
	その他職員(再任用(短), 嘱託職員等)		5	4	4	4	4

3 具体的施策評価 (Check) **主要事業名: 地区公民館活動の充実**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に 係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①各地区委員会事業の 支援	地域の実情を反映した地域の課題解決に向けた取組を地区まちづくり委員会(地域住民)が主体となり、企画・運営し、各種事業をとおして住民の絆づくりのための事業や公益的なまちづくり事業を実施する。	●地域住民が主体的に取り組みまちづくり事業の企画・運営に必要な会議、研修会の開催。 ・地区まちづくり委員会全体会の開催 ・地区まちづくり委員会役員会の開催 ・専門部会議の開催 ・地区まちづくり委員会委員の研修会等の開催 ●地域の課題解決に向けた取組、地域の絆づくり事業、公益的なまちづくり事業の実施。 ・住民の健康づくり、健康づくり事業 ・地域文化向上のための事業 ・青少年の健全育成事業 ・地域の課題解決に向けた取組や地域福祉向上のための事業 ・その他、地域づくり活動に効果的な事業	・4月下旬から5月下旬にかけて各地区まちづくり委員会と委託契約を締結。 ・役員会、専門部会議を毎月開催 ・住民体育祭実行委員会開催 ・公民館まつり実行委員会開催 ・敬老会実行委員会への参加 ・まちづくりだより(広報紙)発行年4回 ・支え合い会議(鹿島、波野、豊郷、大同東地区) ・夏まつり、住民体育祭、公民館まつりなど、公益的なまちづくり事業を実施。 ■特色ある事業 ・ひらい砂の造形大会(平井) ・子どもの居場所づくり事業(三笠) ・北浦一周歩く会(豊郷) ・とよつキッズ(豊津) ・はまなす塩づくり体験(はまなす)など	・地域課題解決に向けた地域住民の主体的な取組が行われた。 ・地域住民の日頃の活動(学習)成果を生かすための場の提供が行われた。 ・地域の実情、特色を生かした顔の見える関係づくり、地域づくり事業が行われた。 ・地区公民館利用者数、地区人口 鹿島:19,272人/9,959人(1.9回) 高松:27,35人/4,836人(4.7回) 平井:19,314人/7,136人(2.7回) 豊津:10,906人/1,267人(8.6回) 豊郷:15,917人/2,932人(5.4回) 波野:18,118人/5,590人(3.2回) 鉢形:11,811人/4,675人(2.5回) 三笠:27,290人/11,112人(2.5回) 大野:85,087人/11,614人(7.3回) はま:28,362人/8,506人(3.3回) 全国平均2回弱 全地区平均4.2回 ※施設の設備(部屋数等)を鑑み、一概に判断は難しいところもある。	(評価をふまえた改善点) 地区まちづくり委員会の事業展開により、イベントや講座などの機会を提供し、住民の地域への興味や関心を高め、公民館は常に地域活動の担い手づくりをされているが、講座などで培った知識や経験(学びの成果)を地域の課題解決に向けた取組にどのように反映させるかが今後の検討課題である。地域の魅力を再発見し、地域を知り、住民にとって住みやすい魅力あるまちを創っていくためには、住民と公民館職員が共にまち(地域)の未来について考え、公民館の機能(「集まる」「学ぶ」「つなぐ」)を生かしていく必要がある。	公民館を地域活動の拠点として、地区まちづくり委員会によって、様々な講座やイベントが企画・運営されており、公民館は常に地域活動の担い手づくりをされているが、講座などで培った知識や経験(学びの成果)を地域の課題やニーズに対応した事業を各種団体(個人)と連携して取り組んでいく必要がある。活動と人、人と情報を繋げてネットワーク化(見える化)していくことが大切であり、東京2020大会をまちづくりの好機と捉え、住民が主体的に取り組み地域活動やまちづくり活動がより活発に展開されるための取組が必要である。
【比率: 20%】			評価: B	評価: A	評価: B	個別事業実績評価点: 15.8
②まちづくり支援事業	・まちづくり活動や地域づくり活動、公民館の運営情報等を共有し、課題に対し学習調査等を推進する組織を設置する。 ・公民館職員及びまちづくり活動関係者の研修会の開催。 ・まちづくり活動における連絡調整、その他まちづくり活動の目的達成に必要な事業の実施。	・まちづくり連絡協議会の設置 ・センター長(公民館長)会議 ・地域活動支援員会議の開催 ・公民館主事研修会の開催 ・公民館主事研修会運営委員会の開催 ・地域の現状や課題を取り上げ、解決を図るための研究(学習)機会の提供 ・茨城県主催研修会への参加 ・全国公民館研究会への参加 ・東京2020大会サッカー競技鹿嶋市開催に向けた市民が主体となって取り組む機運醸成事業の開催 ・学習活動(学び)の成果を生かした実践活動の支援(特色ある地域づくり事業)	・第1回役員会を経て、まちづくり連絡協議会を設置。 ・役員会の開催(計4回) ・構成団体各地区まちづくり委員会委員長、公民館長、中央公民館事務局 ・センター長会議×8回 ・地域活動支援員会議×11回 ・公民館主事研修会×7回 ・公民館主事研修会運営委員会×5回 ・新任公民館主事研修会 ・茨城県公民館・市民センター等職員等研修会※三笠公民館事例発表 ・全国公民館研究会東京大会 ※永年勤続職員表彰受賞者4人 ・学びの成果を生かしたまちづくり事業(特色ある地域づくり事業) 平井公: 砂の造形大会、夏休み、冬休み期間中の子どもの居場所づくり(学習会)の開催。 三笠公: 子ども食堂支援事業、地域住民が主体となって開催する子どもの居場所づくり事業	・茨城団体おもてなし事業や地域福祉活動など、市民と行政が共創して取り組む各種施策の情報共有が円滑に行うことができた。 ・センター長会議、地域活動支援員会議の開催により、各地区で開催されるまちづくり事業、地域活動等についての情報交換、連絡調整を図ることができた。(公民館11人、地域活動支援員11人、中央公民館職員4人) ・公民館主事研修会をとおして、参加者相互の親睦を図るとともに、日常業務における情報交換、連携、協力、支援といった公民館主事としての総合力を高める機会となった。 ・特色ある地域づくり事業は、昨年度取り組んだ学びの成果を生かした実践的な取組として行われている。地域住民が主体的に地域の課題にアプローチする取組を行うことができた。	(評価をふまえた改善点) ・地域を取り巻く生活環境は、大きく変化してきており、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化などにより地域社会の人間関係のあり方も大きく変容している。人と人との絆、支え合う力、他人を思う力などが失われつつあり、地域社会は大きな転換期を迎えているといえる。これからの公民館は、今まで以上に学校、家庭、地域との連携を図り、地域の連帯感を深め、地域住民の協働による地域課題の解決や地域活性化の取組を促進していくこと、公民館が地域づくり、人づくりの拠点となることが期待されており、公民館活動を企画・運営している各地区まちづくり委員会と他団体の拠点である公民館の職員に期待されるものは大きい。地域で活動している市民団体(地縁団体や社会教育関係団体など)の活動を支え、連携、連動して取り組んでいくための必要性を全地区で共有していく必要がある。	前年度の学びの成果を生かした実践的な取組が本年度は2地区で展開される。平井地区では、平井海岸を活用した砂の造形大会と平井地区子ども会育成会と連携して行われた夏休み、冬休みの期間中の子ども居場所づくり(学習会)、三笠地区では、子ども食堂支援事業と子どもの居場所づくり事業が行われる。いずれの取組も地区まちづくり委員会と他団体が連携・協力して行われたものである。地域課題や多様化するニーズに対応していくうえで、地域の各種団体と連携して取り組んでいくことは今後益々求められる。※学習活動(学び)の成果を生かした実践活動の支援事業(特色ある地域づくり事業)計画 ・平成31年度:2地区 ・令和元年度:2地区+2地区=4地区 ・令和2年度:2地区+2地区+2地区=6地区 ※3年間支援。事業検証を経て自主事業として継続、または中止の判断をしている。
【比率: 80%】			評価: A	評価: A	評価: B	個別事業実績評価点: 71.6
総合評価 方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれそれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計 点数	87.4	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果 A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 ・各地区まちづくり委員会においては、地域住民が主体的に地域づくり事業やまちづくり事業を実施し、コミュニティの形成、地域の絆づくり、地域の連帯感を育む取組が行われた。また、東京2020大会を活用した地域活動の活性化に向けた取組や各種事業において、機運醸成のための取組ができた。 ・地域の課題に寄り添い、解決のために必要な手法を学ぶ機会として、各種研修会、講座等を開催することで、地域課題や解決に向けた取組等についての情報を共有することができた。また、学習活動(学び)の成果を生かした実践活動の支援(特色ある地域づくり事業)を展開していくことで、地域住民に対し地域への興味、関心を高め、住民が地域活動に関わる機会をつくり、地域参画が進むように促すためのきっかけづくりとしても期待できる。(新たな地域の担い手づくり)					
充実、現状維持、 見直し、休止・廃止	充実	理由	まちづくり研修会やまちづくり講座、まちづくり市民大会において学習した成果を、地域に還元するための事業展開が引き続き必要である。その取組を支援することで、地域住民が主体的に地域の課題解決に向けた取組に参画しやすくなる。共創のまちづくりを推進し、まちづくり活動(地域づくり・人づくり活動)の充実を図るためには、さらなる支援が必要である。さらに東京2020大会を活用して、各地区の魅力や課題を改めて点検し考えていくことで、地域住民にとっても住みやすく、誇れるまちづくりにつながるための取組(持続可能な地域づくり)を進めていくことが必要と考える。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 東京2020大会をまちづくりの好機と捉え、住民が主体的に取り組み地域活動やまちづくり活動がより活発に展開されることは、持続可能な社会の構築に向けた大きなチャンスである。現在取り組まれている様々な市民活動が、2020年に向けて連携・連動し合い、新しい価値と魅力を創造していくためには、市民と行政の共創による取組は必要不可欠である。しかし、コミュニティにおける人間関係の希薄化や自治会加入率の低下、地縁組織(自治会や消防団、子ども会育成会、シニアクラブなど)活動の低迷、地域のリーダーの固定化や高齢化の問題など、コミュニティの抱える課題は、複雑多岐にわたる厳しい活動環境にある。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 改めて、安全で安心な暮らしやすい、住みよい地域づくりを推進していくために必要なコミュニティ活動の重要性を再認識し、活動全体の見える化と活動のネットワーク化していくことが必要である。様々な市民活動の実態を点検しながら、計画的・効果的な活動と、その活動を担っていく持続可能な市民(地域)組織のあり方について再考し、こうした課題解決の手法として考えられる地域コミュニティ活動プランの作成に向けた学習会を令和元年度から実施し、小学校区ごとの計画づくりに取り組んでいく。※令和元年度~令和3年度(予定)					

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 19

主要事業名	まちづくり市民センター事業の充実				作成日	令和元.6.4		
					担当課名	中央公民館		
事業の性質	法定受託事務		自治事務（義務）		自治事務（任意）	○	市民サービス	管理経費
							建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成		基本政策	5	学び・楽しみ，地域がつながるまち	
個別施策	③	子どもや若者の地域参加の促進		基本施策	3	芸術活動の活性化	

根拠法令等	
-------	--

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	市民の日頃の芸術・文化創作活動の成果を発表する機会を提供します。また今後の創作意欲の醸成を図るとともに芸術・文化を身近に親しむ機会とします。
------------	--

目的（事業の目指すところ）	市民の芸術・文化活動に関する関心を高め，意欲的な創作活動を促し，地域文化を育みます。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が気軽に多様な芸術・文化とふれ合い，また自分の創作作品を発表する機会の充実を図るとともに，文化活動をおとした市民間交流の場の提供に努めます。 ・芸術文化活動を活用した東京2020大会開催に向けた市民の機運の醸成を図ります。 ・芸術・文化団体間の連携を図り，団体活動の活性化を図れるよう支援します。
------------	---

国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	市民や関連団体と共創することで，更なる芸術・文化活動の充実を図るとともに，幅広い分野の文化活動を行うことができる施設の充実などが求められています。
--------------------------	---

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	平成30年度 （実績）	令和元年度 （予定・見込）	2年度 （予定・見込）	3年度 （予定・見込）	4年度 （予定・見込）
		来館者数 （市美展，芸術祭）	人	1,973	2,000	2,100	2,200
	市美展出品者数	人	192	196	198	200	202

投入コスト	全体計画		平成30年度 （決算額：千円）	令和元年度 （予算額：千円）	2年度 （計画額：千円）	3年度 （計画額：千円）	4年度 （計画額：千円）
	事業経費	市美術展覧会		400	400	1,400	600
芸術祭			193	306	306	306	306
合計			593	706	1,706	906	906
財源内訳		国県支出金 地方債 その他（参加者負担金） 一般財源		593	706	1,706	906
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者） その他職員（再任用（短），嘱託職員等）		5	4	8	10	12
			5	4	4	4	4

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:まちづくり市民センター事業の充実

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定 事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標	事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
①文化事業 (市美術展覧会)	運営委員会、実行委員会を組織することで、事業の円滑な実施を図る。 第22回鹿嶋市美術展覧会の開催 会期:6月26日(火)~7月2日(日) 会場:まちづくり市民センター 体育館 公募展:絵画/書/写真/工芸 ・芸術文化に関する専門的な知識、技術を有する者及びボランティアをもって運営委員会、実行委員会を組織する。 ・出品申込期間に土日曜日を入れる。 ・部門ごとに「最優秀賞」「優秀賞」「奨励賞」「会員賞」を表彰する。 ・申込場所を市内公民館で行い、申込者の利便性を図る。 ・広報については、新聞社等マスメディアを活用し、周知を図る。	・出品点数目標値:194点 ・鑑賞者数:950人	・4月28日:第1回運営委員会 ・5月12日:第1回実行委員会 ・5月29日~6月3日:申込期間 6日間とり土日曜日に申込をできるようにする。申込場所は、市内公民館(11館) ・6月5日:第2回運営委員会 ・6月23日:審査員会議 ・7月1日:表彰式 ・7月17日:第2回実行委員会 ・広報周知活動 ポスター掲示市内×56カ所 市外×17カ所 広報かしま(5月15日号)/市民むつろ-ホム-ア-ツ/市民むつろ-広報紙(全戸配布)/FMかしま/茨城新聞掲載(6月28日)/Tfのり21 ・申込者へ展覧会周知用A4ポスター配布 ・東京2020大会参画プログラム申請	・出品点数:192点(177点) 絵画:47(38) 書:44(44) 写真:34(36) 工芸:67(59) ・鑑賞者数:1,038人(993人) ・表彰者:38人 絵画/書/写真/工芸 最優秀賞 1 1 1 1 優秀賞 2 2 2 3 奨励賞 5 5 5 6 会員賞 1 1 1 1	(評価をふまえた改善点) ・運営委員会、実行委員会を組織し、運営することで、作品の搬入、展示レイアウト、搬出に至るまで出品者と協力して開催することができたことは今後も継続すべき内容である。 ・東京2020オリンピック開催に向け、鹿嶋市の芸術文化を国内外に発信し、市内の芸術文化の活性化を図るための取組を協議している。今後も鹿嶋市文化協会と、連携していく意義は大きい。	個別事業実績評価点: 37.8 [課題] 運営委員会、実行委員会委員の新しい人材の発掘及び育成が引き続き必要である。東京2020大会を活用した取組を通じて、改善を図っていく必要がある。
[比率: 50%]			評価: A	評価: B	評価: B	
②文化事業 (芸術祭)	代表者会議、実行委員会を組織することで、事業の円滑な実施を図る。 第17回鹿嶋市芸術祭の開催 会期:10月23日(火)~28日(日) 会場:まちづくり市民センター 体育館 公募展:8部門 絵画/書/写真/工芸/手芸/華道/和紙絵/自由創作 ・芸術文化に関する専門的な知識、技術を有する者及びボランティアをもって代表者会議、実行委員会を組織する。 ・出品申込期間に土日曜日を入れる。 ・申込場所を市内公民館で行い、申込者の利便性を図る。 ・広報については、新聞社等マスメディアを活用し、周知を図る。	・出品点数目標値:264点 ※8部門×33点 ・鑑賞者数:950人	・7月27日:第1回代表者会議 ・8月22日:第1回実行委員会 ・9月4日~23日:申込期間 6日間とり土日曜日に申込をできるようにする。申込場所は、市内公民館(11館) ・9月26日:第2回代表者会議 ・10月21日:作品搬入 ・10月22日:華道いけ込み ・10月25日:華道いけ込み ・11月14日:第2回実行委員会 ・広報周知活動 ポスター掲示市内×143カ所 市外×17カ所 広報かしま(9月1日号)/市民むつろ-ホム-ア-ツ/市民むつろ-広報紙/FMかしま/から版/月刊かしま/よみうりかわ/エス/茨城新聞/Tfのり情報/Tfのり21/市内高等学校へ出品依頼及びPR周知 ・東京2020大会参画プログラム申請	出品点数:338点(341点) 絵画:36(37) 書:64(46) 写真:42(37) 工芸:50(45) 手芸:63(79) 華道:36(37) 和紙絵:33(39) 自由創作:14(21) ・鑑賞者数:935人(892人) ・代表者会議7人、実行委員会委員59人の協力を得て、計画のとおり円滑に実施することができた。 ・市民の創作活動の発表、並びに芸術に親しむ機会の提供により、市の芸術文化の向上に寄与した。 ・東京2020大会参画プログラム事業(文化クリエイター)として承認される。	(評価をふまえた改善点) ・代表者会議、実行委員会を組織し、運営することで、作品の搬入、展示レイアウト、搬出にいたるまで、出品者と協力して行うことができた。また、本事業の実施に際し、鹿嶋市文化協会の協力は不可欠なものとなっている。 ・新たな芸術活動の担い手の発掘と育成については、市内高等学校に出品依頼及び周知活動を行っているものの、引き続きその手法については、検討していく必要がある。 ※平成30年度高校生出品者4人(1人)書:1人、写真:2人、自由創作:1人	個別事業実績評価点: 43.0 [課題] 代表者会議、実行委員会委員の新しい人材の発掘及び育成が必要である。東京2020大会を活用した取組を通じて、より多くの芸術家の参加を得られるよう改善を図っていく必要がある。 ・洋裁、編物部門については、平成28、29年度と出品がなかったため、代表者会議等を経て平成30年度より自由創作部門に統合した。
[比率: 50%]			評価: A	評価: B	評価: A	

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	80.8	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 市美術展覧会や芸術祭を開催することで、市内芸術家の創作活動への意欲を促進させる機会となっている。また、市民に気軽に芸術文化に親しむ機会を創出することができている。継続的な課題(芸術文化活動を行う新たな人材)について、市内高等学校を訪問し、市文化事業に関する情報提供(周知・広報活動)を行い、新たな人材の発掘・育成へとつながる取り組みを引き続き継続していく必要がある。※芸術祭:高校生出品者4人(書1人、写真2人、自由創作1人)					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	市内で最大規模を誇る市美術展覧会(審査を伴う展覧会)と市芸術祭(芸術家創作活動の発表の場)は、市民が気軽に多様な芸術・文化にふれる大切な場となっていること、そして市内の芸術家の創作活動(意欲)を高める機会となっており、ゆとりと潤いを実感できる心豊かな市民生活を実現するためには、必要な事業である。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 継続的な課題ではあるが、文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など、市の芸術文化活動の活性化を図る取り組みを文化協会と連携して進めていく必要がある。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 東京2020大会を契機に、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか。また、市の芸術文化活動をどのように生かす国内外に発信しアピールしていくのか。東京2020大会を活用した市美術文化活動の活性化策を文化協会と連携して、引き続き取り組んでいく必要がある。平成30年度から市の文化事業について市内高等学校へ広報活動を行っており、引き続き若い世代への広報活動を継続していくとともに、幅広い世代が芸術文化活動に参加できる取り組みを文化協会と検討していく。東京2020大会開催に向けたおもてなし活動を契機に、新たな芸術活動の担い手の育成、発掘を進めていきたい。また、令和元年度においては、オリンピック開催1年前イベントとして、まちづくり市民センターを会場に様々な市民活動団体と連携した事業の実施について協議を行っている。					

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 20

主要事業名	まちづくり連絡協議会活動の充実					作成日	令和元.6.3
						担当課名	中央公民館
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	自治事務(任意)	○	市民サービス	管理経費	
					建設事業	その他	
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	4	市民と共に創るまちづくり
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	9	地域が結び、笑顔あふれるまち
個別施策	④	公民館まつり等の実施	基本施策	2	コミュニティ活動の活性化

根拠法令等	
-------	--

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	東京2020大会サッカー競技鹿嶋市会場開催の成功に向けた取り組みとして、交通・宿泊・治安・医療などの対策、そして、機運醸成や国内外から本市を訪れる方々に対する「おもてなし」事業の検討など、様々な分野で取り組みがスタートしています。この機会を活用して、本市（各地区）の魅力や課題を改めて点検し、来訪者にとって魅力的なまちとはどのようなまちなのか。具体的に「おもてなし」とは何をするのかなどについて検討し、取り組んでいくことによって、オリンピック終了後も市民にとっても住みやすく、誇れるまちづくりにつながっていくような、市民によるオリンピックレガシー事業の創出に取り組めます。
------------	--

目的（事業の目指すところ）	オリンピックの成功に向けて様々な取り組みとその成果を生かして、どのようなまち、地域をめざしていくのか。お互いの顔と活動が繋がる環境づくりについて、オリンピックを契機に地域の方々と考えていく必要があります。公民館を中心とした地域におけるまちづくり市民活動のネットワーク形成をめざして「地域コミュニティプラン」を作成し、オリンピックレガシーとして鹿嶋市の市民活動のステップアップを図っていきます。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックパラリンピックについての理解を深める（まちづくり研修会） ・地域の魅力と資源を活用したおもてなし活動を考える（まちづくり講座） ・オリンピックレガシーとおもてなしプログラムを考える（まちづくり講座） ・おもてなしプログラムの展開と活動のネットワークを考える（まちづくり講座） ・様々な分野の市民活動、団体が相互に連携、連動できるネットワークのあり方について考える（まちづくり市民大会）
------------	---

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を活用し、社会教育活動の活性化にいかに関与させていけるかが問われています。東京2020大会を契機に、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか。そのレガシーを実現するためにはどのような課題があるのか。その課題解決のためにはどのような学習と活動が必要になってくるのか。学びを通じたまちづくりを担う社会教育の役割は大きく、新たなことに取り組むチャンスである、としています。
--------------------------	--

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
	研修会及び講座、大会の開催数	回	5	5	5	5	5
	オリンピック・パラリンピック機運醸成フェース設置数（公民館）	館	10	10	10	0	0

投入コスト	全体計画		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
			(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	まちづくり支援事業委託						
		・まちづくり研修会等事業	400	480	480	480	480
		・コミュニティプラン作成事業	0	0	1,000	600	0
		・オリンピックおもてなし事業	1,000	1,200	2,000	0	0
		まちづくり市民大会事業委託	500	450	450	450	450
	合計		1,900	2,130	3,930	1,530	930
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		1,900	2,130	3,930	1,530	930
従事職員数	正規職員(フルタイム勤務者)		5	5	8	10	12
	その他職員(再任用(短)、嘱託職員等)		5	4	4	4	4

3 具体的施策評価 (Check) **主要事業名: まちづくり連絡協議会活動の充実**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定	事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価	
①まちづくり研修会の実施	<p>事業実施に直接関連する指標</p> <p>カガビ ッカガビ についての内容の考え方や、先進的で具体的な取組を学び、市民レベルでできる取組を考える。</p> <p>①カガビ ッカガビ ッカは単なるカガビ ッカ以外ではないこと。</p> <p>②カガビ ッカを遺してこそ意味ある大会となること。</p> <p>③カガビ ッカを遺すためには、自分たち(市民)がカガビ ッカを起こすこと。この3つのカガビ ッカについて、学ぶ研修会を実施する。</p>	<p>成果に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区まちづくり委員会、地区公民館、鹿嶋市国際交流協会、鹿嶋市子ども会育成会、行政関係者等100人を集めて研修会を開催する。 東京2020大会のカガビ ッカと市民活動に詳しい方を講師に選定する。 	<p>鹿嶋市まちづくり研修会の開催</p> <p>日時: 6月3日(日) 10時~12時</p> <p>会場: まちづくり市民センター講義室</p> <p>テーマ: カガビ ッカガビ ッカを活用した市民活動を考える。</p>	<p>まちづくり研修会の開催により、地区まちづくり委員会委員及び公民館職員に求められる専門的、実践的な知識、技術についての学習機会を提供できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師は、月刊社会教育で東京2020大会を生かした社会教育について連載している、前東京オリパラ競技大会組織委員会派遣 小平地域振興部産業振興課 中田 智久 氏と、前東京都オリパラ準備局派遣 小平地域振興部文化スポーツ課 萩元 直樹 氏に依頼。 参加者: 125人 アンケート実施: 53/125 	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>本研修会を終えて参加者から「今回がまちづくりのチャンスと捉えることが大事だった」「鹿嶋市をアピールする絶好のチャンスである」「カガビ ッカとして何を遺していけるのか。みんなでも取り組んでいく楽しさを味わいながら取り組んでいきたい」などの声をいただいた。</p> <p>残された時間は多くはない中で、どの様な市民活動に取り組みめるかを考え、実践し、その経験を将来のまちづくりにどのように生かしていけるのか、カガビ ッカの成功に向けた取組の一つとしておもてなしの市民活動を考えていく必要がある。</p>	<p>個別事業実績評価点: 26.9</p> <p>まちづくり連絡協議会としての研修の色合いが強いため、組織内研修会なのか、幅広い市民を対象とするのが整理が必要である。</p>
②まちづくり講座の開催	<p>カガビ ッカ鹿嶋市開催の成功に向けた市民参画(カガビ ッカ(機運醸成・おもてなし事業等)を検討し、2020年に繋がる市民による参画(カガビ ッカ)について、企画・提案をしていくための学習機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区まちづくり委員会、まちづくり市民センター懇話会、まちづくり市民活動団体関係者、社会教育関係団体、行政関係者等100人程度を対象に、2020年に繋がる市民による参画(カガビ ッカ)を作成する。 	<p>まちづくり講座の開催</p> <p>第1回10月20日(土)19時~21時</p> <p>第2回11月24日(土)19時~21時</p> <p>第3回12月15日(土)19時~21時</p> <p>会場: まちづくり市民センター講義室</p> <p>至地</p> <p>テーマ: 未来に生かそう! 市民がつくるカガビ ッカがカガビ ッカ~私たちが考えるおもてなしのカガビ ッカ~</p> <p>学習形態: 講演+グループワーク</p>	<p>カガビ ッカハ ッカガビ ッカ参画(カガビ ッカ)の8つのテーマ(カガビ ッカ健康、まちづくり環境、持続可能性、文化、教育、経済カガビ ッカ、復興、カガビ ッカ)世界への発信を軸に①地域の魅力と資源を活用したおもてなし活動②カガビ ッカガビ ッカとおもてなし(カガビ ッカ)③おもてなし(カガビ ッカ)の展開と活動のネットワークについて考え、鹿嶋らしいおもてなしの(カガビ ッカ)企画提案書が作成された。</p> <p>参加者: 第1回90人、第2回80人、第3回89人 計259人</p>	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>まちづくり講座を終えて参加者から、「カガビ ッカハ ッカガビ ッカが身近なものになってきた」「他の団体の活動がお互いになかった」「市職員として市民の熱い思いや体験などを聞ける貴重な機会となった」との声があった。</p> <p>テーマ別に鹿嶋市の魅力・資源を整理し、カガビ ッカハ ッカガビ ッカを契機に取り組み、おもてなし(カガビ ッカ)事業が提案されたことを受けて、今後の取組について行政が行うことと市民が行うことなど、役割等について担当切割りをまとめていく必要がある。</p>	<p>個別事業実績評価点: 23.7</p> <p>まちづくり講座で提案されたおもてなし(カガビ ッカ)企画提案書を具体化していくための仕掛けが必要であると考える。</p>
③まちづくり市民大会の開催	<p>カガビ ッカを単なるカガビ ッカの祭典としてだけではなく、様々な分野のまちづくりを推進するチャンスとして活用すべき理由について改めて共有する。また、まちづくり研修会やまちづくり講座での学習成果や、行政の取組情報を共有し、カガビ ッカ鹿嶋市開催の成功を目指す事業・活動の具体化に向けた役割分担や体制・仕組みについて整理する。そして、2020年の鹿嶋市開催を成功させるために、市民活動の分野を超えた連携とネットワークの必要性とそのあり方について明らかにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり市民大会実行委員会の開催 地区まちづくり委員会、まちづくり市民センター懇話会、市体育協会、市PTA連絡協議会、市教育会、行政関係者等350人程度を対象に、まちづくり研修会、まちづくり講座で検討された内容を踏まえ、多くの市民、関係機関の方々と意見交換、情報共有の機会とする。 	<p>まちづくり市民大会の開催</p> <p>日時: 平成31年2月3日(日)</p> <p>13時30分~16時30分</p> <p>会場: 大野まちづくりセンター 多目的ホール</p> <p>テーマ: 未来に生かそう! 市民がつくるカガビ ッカがカガビ ッカ~私たちが考えるおもてなしの(カガビ ッカ)~</p> <p>表彰: まちづくり市民・団体表彰 個人11・団体2</p> <p>啓発: 東京五輪音頭2020(市舞踊連盟)</p>	<p>基調提案、ハ ッカガビ ッカをとおして、東京2020大会を活用し、どのような市民活動が取り組めるのかを考え、実践し、その経験を将来のまちづくりにどのように生かしていくかを共有することができた。</p> <p>参加者: 380人</p> <p>カガビ ッカ実施: 47/380</p>	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>本大会を終えて参加者からは「東京2020大会がもたらす近く身近に感じられた」「傍観者ではなく自分も楽しみ、みんなで人の和をつくりたい」などの声をいただいた。おもてなしについて考えることは、まちの魅力や再発見(掘り起こし)すること、さらに地域の特色や地域資源を生かした鹿嶋ならではの取組は、まちを活性化させ、誇れるまちづくりに繋がっていくものと考え、持続可能な社会の構築に向けた大きなチャンスであるという考えを共有できたこの機運を、さらに広げて、発展させていく必要がある。</p>	<p>個別事業実績評価点: 22.7</p> <p>東京2020大会を迎えるにあたりカガビ ッカ鹿嶋での準備と活動が不可欠である。カガビ ッカを経験することで、市民が主体的に取り組む地域活動やまちづくり活動が、より活発に展開され、持続可能な社会の構築に向けた大きなチャンスである。鹿嶋が、国内外からの来訪者に、何を期待されているのかを整理し、それによってどのような行動を起こすべきかを考え、訪れた人に納得してもらう取組を市民と行政で考えていく必要がある。</p>
④オリンピック機運向上事業及び展示(カガビ ッカ)の設置	<p>東京2020大会をわが事として捉え、東京2020大会とつながりを生み出し、幅広い世代の交流を通じ、地域が連携して機運を盛り上げていく機会を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020参画(カガビ ッカ)に各地区まちづくり委員会が主催する事業を公認(カガビ ッカ)と 公民館にカガビ ッカ(カガビ ッカ)を設置し、カガビ ッカ開催の機運を盛り上げる。 	<p>参画(カガビ ッカ)承認事業数: 25事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館カガビ ッカ(カガビ ッカ)設置(11館) 主な内容としては、地域の子どもたちによる横断幕への寄せ書きや地域の子どもたちの手形の掲示(未来の地域のイメージ)、中学校生徒と小学校児童による応援メッセージ(横断幕)、オリンピックバッジを作成しての掲示など。 	<p>各地区まちづくり委員会事業が東京2020大会承認事業となったことで、参加する地域住民へ大会開催の周知を図り、地域が連携して機運を盛り上げていく機会を創出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館カガビ ッカ(カガビ ッカ)の取組により、東京2020大会と地域住民が繋がる意識を醸成している。 ※地区公民館利用者数 258812人 	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>地域からカガビ ッカを盛り上げていくために各種取組を展開していく必要がある。地域団体(自治会や子ども会育成会、カガビ ッカ)と連携して行うことで、地域ならではのおもてなしが期待できる。今後とも地域住民が東京2020大会を身近に感じ、参加しているという意識をさらに高めていくための取組を地区まちづくり委員会と検討していく必要がある。</p>	<p>個別事業実績評価点: 7.9</p> <p>参画(カガビ ッカ)承認事業や公民館カガビ ッカ(カガビ ッカ)は、地域住民が東京2020大会を身近に感じる機会として、とても効果的である。できるだけ多くの人が参画し、あらゆる分野で東京2020大会とつながり、きっかけづくりとして、カガビ ッカ開催の機運を盛り上げていくとともにその先のカガビ ッカ参画に向けての多様なカガビ ッカ事業を各地区まちづくり委員会と連携して取り組んでいく必要がある。</p>

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	<p>具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0B=0.65C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。</p>	合計点数	81.2	<p>A: 合計点数が80点超</p> <p>B: 合計点数が50点超80点以下</p> <p>C: 合計点数が50点以下</p>	総合評価結果	A
実績	<p>社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。</p> <p>東京2020大会鹿嶋市開催の機会を活用して、まちの魅力や課題を改めて点検し、魅力的なまちとはどのようなまちなのか、国内外からの来訪者に納得してもらえるおもてなし活動とは何なのかを学び、多くの市民と情報を共有できたことは、これからのまちづくりの推進にとっても大きな一歩である。東京2020大会の成功のためには、様々な市民活動団体、日頃の活動の成果を発揮し活躍できる機会を提供することが大切で、そのためには、活動と人、人と情報を繋げてネットワーク化すること、様々な団体が連携・連動して取り組むことで活動がより活発に展開され、持続可能なまちづくりに大きな力となることを多くの市民と共有することができた。</p>					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	<p>共創のまちづくりを推進していくためには、まちづくり研修会(学びの動機付け)⇒まちづくり講座(学習機会の提供)⇒まちづくり市民大会(市内全域を対象とした情報の共有)という社会教育の手法は必要不可欠である。また、まちづくり研修会やまちづくり講座、まちづくり市民大会において学習した成果を、地域に還元するための事業展開が引き続き必要である。その取組を支援することで、地域住民が主体的に地域の課題解決に向けた取組に参画しやすくなる。共創のまちづくりを推進し、まちづくり活動(地域づくり・人づくり活動)の充実を図るためにはさらなる支援が必要である。さらに東京2020大会を活用して、各地区の魅力や課題を改めて点検し考えていくことで、地域住民にとっても住みやすく、誇れるまちづくりにつながるための取組(持続可能な地域づくり)を進めていく必要がある。</p>			
課題	<p>継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。</p> <p>現在取り組まれている様々な市民活動が、2020年に向けて連携・連動し合い、新しい価値と魅力を創造していくためには、市民と行政の共創による取り組みは必要不可欠である。しかし、コミュニティにおける人間関係の希薄化や自治会加入率の低下、地域組織(自治会や消防団、子ども会育成会、シニアクラブなど)活動の低迷、地域のリーダーの固定化や高齢化の問題など、コミュニティの抱える課題は、複雑多岐にわたる厳しい活動環境にある。</p>					
改善策	<p>課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。</p> <p>改めて、安全で安心な暮らしやすい、住みよい地域づくりを推進していくために必要なコミュニティ活動の重要性を再認識し、活動全体の見える化と活動のネットワーク化をしていく必要がある。様々な市民活動の実態を点検しながら、計画的・効果的な活動と、その活動を担っていく持続可能な市民(地域)組織のあり方について再考し、こうした課題解決の手法として考えられる地域コミュニティ活動プランの作成に向けた学習会を令和元年度から実施し、小学校区ごとの計画づくりに取り組みます。※令和元年度~令和3年度(予定)</p>					

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 21

主要事業名	青少年健全育成事業の充実					作成日	令和元.5.30
						担当課名	社会教育課
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス 建設事業
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		年度から 年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(4)	市民ぐるみで行う青少年健全育成の推進		基本政策	4	豊かな人を育むまち	
個別施策	②	フロンティア・アドベンチャーなどの青少年の交流と活動の促進 他		基本施策	3	青少年の健全育成	
根拠法令等	鹿嶋市青少年センター設置条例（昭和43年6月11日）						

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	<ul style="list-style-type: none"> フロンティア・アドベンチャー事業…小学5・6年生を対象とし、自然の中での長期宿泊体験活動を通して、自己の発達や友人関係の向上を図る。 青少年の健全育成事業…青少年相談員を各地区に配置し、巡回活動や相談などを実施する。また、中学生を対象に心の育成に関する講演会を実施する。 メディア教育の推進…低年齢でのインターネット利用が増加しており、青少年の適切な利用を促進するため、メディア講演会などを実施する。
目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> 様々な自然の中での体験活動を通して、生きる力(自立性・協調性・課題発見能力・課題解決能力など)を身につけ、成長することを目的とする。 青少年をとりまく社会環境を健全化し、青少年の健全育成や非行防止などを目的とする。 青少年がインターネットを適切に活用できるように、家庭、地域学校などにおける情報モラル教育の推進を目的とする。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校と共催で実施し、教職員を中心とする推進委員会にてプログラム検討などを行う。また、現地では教職員、市職員、看護師、一般ボランティアが連携をとり運営している。 青少年相談員が巡回活動、声かけ活動などを実施する。また、「心とからだの講演会」を実施し、健全な性に関する学習の場を設ける。 中学校の入学説明会時にメディア教育講演会を開催し、インターネットの適切な活用を促進する。
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	フロンティア・アドベンチャー参加児童の保護者を対象に行ったアンケートの結果からは、事業に対する高い評価が読み取れる。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (予定・見込)	2年度 (予定・見込)	3年度 (予定・見込)	4年度 (予定・見込)
		フロンティア・アドベンチャー事業の満足度	%	90	90	—	90
	メディア教育講習会参加者の満足度	%	69	70	70	70	70

投入コスト	全体計画		平成30年度 (決算額：千円)	令和元年度 (予算額：千円)	2年度 (計画額：千円)	3年度 (計画額：千円)	4年度 (計画額：千円)
	事業経費	フロンティア・アドベンチャー事業委託費		2,600	2,500		2,500
青少年センター活動経費 (報酬、費用弁償、消耗品費、負担金など)			2,423	1,339	1,339	1,339	1,339
メディア教育講習会(講師謝礼)			65	65	65	65	65
合計			5,088	3,904	1,404	3,904	3,904
財源内訳	国県支出金		43	43	43	43	43
	地方債						
	その他(参加者負担金)		38	28	28	28	28
	一般財源		5,007	3,833	1,333	3,833	3,833
従事職員数	正規職員(フルタイム勤務者)		3	3	3	3	3
	その他職員(再任用(短), 嘱託職員等)		2	2	2	2	2

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名: 青少年健全育成事業の充実

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①フロンティア・アドベンチャー事業 【比率: 60%】	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で、1泊1日の長期集団宿泊体験の機会を提供し、生きる力(自立性・協調性・課題発見能力・課題解決能力など)を身につけ、子どもたちの健全育成を図る。 フロンティア・アドベンチャー事業の実施 期間: 7月24日~8月3日 募集人数: 70人 場所: 福島県 那須甲子少年自然の家ほか 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校5~6年生を対象に、1泊1日の長期集団宿泊体験を実施する。 実施後に保護者アンケートを実施し、事業全体の満足度80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 心算: 97人 (6年生39人, 5年生58人) 参加: 69人 (6年生31人, 5年生38人) 現地視察(1回) 企画運営会議(推進委員会) 実行委員会 合同研修会 サプリーダー研修会 保護者説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施後に保護者を対象にアンケートを実施し、51人から回答を得た。 参加前に比べ子どもの生活などに変化が見られたかについて、82.4%が「変化があった」と回答 事業全体に対する満足度は、90%が「満足している」と回答 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) 指導者の入れ替わりが多く、スムーズな引き継ぎ、参加者の安全確保などができるよう、事前研修会の内容を見直した。 	個別事業実績評価点: 60.0 [課題] 2020年度は、フロンティア・アドベンチャーの開催時期と東京オリンピックの開催時期が重複しているため、事業の中止を含めて検討していく必要がある。
②鹿嶋市青少年センターの活動 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> 青少年相談員による巡回活動を実施し、青少年に対する声かけや相談を通して青少年の健全育成を図る。 青少年相談員の資質の向上を図るとともに活動の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 青少年センター運営協議会の開催 青少年相談員による巡回活動やあいさつ声かけ運動の実施 青少年の健全育成に協力する店の登録活動 有害広告物や白ポストによる有害図書回収活動 青少年相談員の研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 街頭での定期巡回 地域行事開催時の一斉巡視 青少年の健全育成に協力する店の登録活動(11月) 有害広告物や白ポストによる有害図書の回収活動 小学校でのあいさつ声かけ活動(年2回×12校) 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な巡回(6班集体/1班年4回/計24回)を行い、青少年の非行行動の抑止に繋がった。 県や市で行う青少年相談員に関わる研修会等に参加し、相談員の資質向上に努めた。(参加延べ人数: 49名) 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) 巡回活動は非行行動の抑止には繋がっているが、年々青少年に出会う機会は減少してきている。そのことについて、研修会や役員会などで協議した。 	個別事業実績評価点: 13.0 [課題] 地域行事開催時を中心に活動を行うことで市民に活動の周知ができる。これにより、地域との連携などもさらに強化できると考えられる。
③心とからだの講演会の実施 【比率: 10%】	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に性や心の教育をすることにより、性についての正しい理解や知識を育て、青少年の健全育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 健全な性に関する知識の学習や自分自身を大切にするための心の育成を図るべく「心とからだの講演会」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内5中学校で「心とからだの講演会」を実施する。 講演会参加者(中学生)に、講演会後アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施後に参加者(中学生)を対象にアンケートを実施し、512名から回答を得る。 講演会に関して「参考になった」または「一部参考になった」と言う回答が約75%となった 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) 性に関することは、恥ずかしく、教員も生徒も教えたり、聞いたりすることが難しいが、第三者が講演することで、素直に聞くことができる 	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] アンケート内容はシンプルなものとなっているため、どのような悩みを抱えているのかわからない。アンケート内容を精査する必要がある。
④メディア教育講演会の実施 【比率: 10%】	<ul style="list-style-type: none"> 青少年が安心してインターネットを利用できる環境やインターネットを適切に活用する能力を習得することができるよう、情報モラル教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校入学説明会の機会を利用してメディア教育講演会を実施し、情報モラルやフィルタリングサービスの啓発活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県メディア教育指導員の活用しメディア教育講演会を対象に市内5中学校で実施する。また、参加者対象のアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施後に保護者を対象にアンケートを実施し、278人から回答を得た。 事業全体に対する満足度は、97.4%が「満足している」と回答 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) 時事的な事柄を交え説明することで、身近な問題だと認識してもらいように工夫した。 	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] 子どもたちのインターネット等の利用方法について説明することも重要だが、保護者の利用方法についても説明する必要がある。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれ別の判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	86.0	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 ・国の調査では「体験活動が多い子は、自己肯定感(※自身のあり方を評価できる自尊感情や自らの価値や存在を肯定できる自己存在感など指す)が高い」という調査結果が出ているが、青少年の自然体験は減少傾向にある。フロンティアでの体験で、感動や喜び、寂しさ、忍耐などの感情を持つことで、豊かな人間性と価値観が形成され、自己肯定感の向上に有効である。 ・インターネット利用は低年齢化しており、青少年に対して有害な情報も安易に手に入る現状となっている。メディア教育を充実することで、適切なインターネット利用を促進することができる。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	休止・廃止	理由	・2019年度は継続してフロンティア・アドベンチャーを実施するが、2020年度は、フロンティア・アドベンチャーの開催時期と東京オリンピックの開催時期が重複しているため、事業の中止を含めて検討していく必要があり、4月に行った実行委員会において中止を決定した。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 フロンティア・アドベンチャーには多くの指導者(大人)が関わっている。働き方の変ってきている現代において、今までと同じ指導者の集め方では、なかなか集めることが難しくなっている。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 2020年度は中止し、今後の開催に向けて1年間かけて、実施方法を検討する。						